

(個人用)

行政視察等報告書（個人用）

令和5年10月19日

知立市議会議長 様

報 告 者	兼子義信
日 時	令和5年10月12日（木）～10月13日（金）
視察（研修）場所	青森県八戸市公会堂
目 的	第85回全国都市問題会議参加
1. 第85回全国都市問題会議 【概 要】 議題「文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展」 人口減少、地域コミュニティの衰退、経済格差の増大などの現代の課題は、知立市にとっても重大なものであり、文化芸術やスポーツ活かして克服していくことは解決の一つとして有意義な議題の研修会でした。 そのためには、知立市の固有の唯一無二のアイデンティティの再度見直しが必要であり、知立市の魅力創出やまちづくりの基盤となる可能性を探っていく良い機会をもらえました。知立市で文化芸術やスポーツを通じて、市民が「つながっていく」ことが、今後ますます大事になっていくと感じる講演がありました。 基調講演では、「アートは生きる力」、「アートは多様性ある社会を築く基盤」、「アートは社会的な課題に対して持続的に取り組み続けていくには大切なものである」などのテーマを、岐阜県の「こよみの夜船」、水戸市の水戸芸術館、金沢市の21世紀美術館、熊本市のART LAB MAKETなどの具体例を出して教えていただきました。「アートには心を動かす力がある」こと、心の問題を解決していく課題であることを再認識いたしました。 八戸市につきましては、新たな交流と創造の拠点「八戸ポータルミュージアムはっち」が、地域資源の創出・発信する取り組みは、多くの市民も加わっておりました。特に、横丁が「酔っ払いに愛を～横丁オンリーユーシアター」として発展していることに興味を持ちました。また、地の利を生かした氷都八戸パワーアッププロジェクトのスケート教室にも学ぶものがありました。	

「まちづくりにおけるプロスポーツクラブの有効活用」として講演された鹿島アントラーズは、発足当時鹿島市の人口が4万4千人、現在7万人弱で知立市と同じくらいの人口で、地域との深いつながりを大事にして発展し続けている点で、以前から関心がありましたので、大変興味深い話でした。スポーツを活かしたまちづくりがどれほどの発展をもたらすか、地域の社会課題を解決していくためにどのような展開が必要なのか、新たな技術と考える今後の将来を見通していくことの大切さなどを実感する話がありました。

【所感、知立市政への反映に向けた課題等】

① 知立まつりをはじめ、文化歴史のまちづくり

本祭で上演される人形浄瑠璃芝居「山車文楽」、「山車からくり」は、国指定重要無形民俗文化財。ユネスコの無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」であり、その価値を再認識し、市民とともに盛り上げ、価値的な情報発信を考えていくことが必要。

その他にも、八橋のかきつばた園、在原の業平、西町の花しょうぶ園、知立神社のお万の方、東海道の宿場町、猿渡公民館の内藤呂魯一、かつての西三河の交通の拠点など、知立市の歴史・文化の価値あるものを整理し、観光都市としてどう発展させていくことができるかが課題。

② 健康づくりのためのスポーツ振興のまちづくり

子どもたちの体力維持・向上、お年寄りのグラウンドゴルフや老人会や町内会で取り組める健康体操、日ごろから散歩に親しめる環境づくりが課題。

また、民間のプロスポーツとの連携で、夢や希望のあるまちづくりを考えていくことも課題である。市民の健康をはじめ、経済効果、人が一緒につながっていくまちづくりで、「知立といえば〇〇」といわれるようなキャッチフレーズを生み出していくことも課題。

③ 知立連続立体交差事業にあわせて賑わいのあるまちづくり

市民を巻き込んだ街づくりのために、専門的な知識を持った人材を招き、駅周辺の整備に取り組むことが課題。八戸の横丁や市民の集える場づくりなどは、まさに市民が手作りで進めているもので、そこに住む人たちが喜んで参加できるような仕組みを観光協会などが主体になって考えていくことが課題。

※報告書は視察（研修）場所ごとに作成してください。

報告書は視察（研修）終了後1週間以内に提出してください。